WATER STAND

写日よりもっと、清んだミライへ











CORPORATE MESSAGE

今日よりもっと、清んだミライへ

ウォータースタンドは、2020年に「ミッションとビジョン」、2021年にコーポレートメッセージ「今日よりもっと、清んだミライへ」を策定しました。

「ミッションとビジョン」では、弊社単独では到底なしえない目標を策定しています。しかし、目標を明確にしたことでこれまで多くのパートナーの皆様と協働・共創することができました。ここに改めて感謝申し上げます。

コーポレートメッセージ「今日よりもっと、清んだミライへ」は、弊社が実現したい持続可能な社会像です。

今日、社会にとってポジティブな働きかけをすることが、社会の公器として企業が存在を許される唯一の あり方であると考えています。弊社は従業員やお客様、地域社会、ミライの世代をステークホルダーとし、 「清んだミライ」を目指してまいります。

ミッション&ビジョン動画

弊社が目指す持続可能な社会像を実現するために掲げた「ミッションとビジョン」策定の背景を 動画で配信しています。ぜひご覧ください。



MISSION

ウォータースタンドは 未来の世代のために より良い地球環境を 引き継ぎます。

わたしたちは、2030年までに 日本の使い捨てプラスチックボトルを 30億本減らします。

VISION

ウォータースタンドは マイボトルを携帯する新しい文化を創り 気候変動とプラスチックによる 環境問題に 取り組みます。

編集方針

「ウォータースタンドレポート」は、弊社で働く従業員やお客様、自治体、地域の皆様、出前授業などを通じてお会いする小学生から大学生までの未来世代の皆様だけでなく、これから生まれてくる子供たちを弊社のステークホルダーと定義し、全てのステークホルダーの皆様に向けて発行する対話のためのツールです。

これから生まれてくる子供たちについては、今を生きる「未来世代」と区別し「ミライの世代」と呼称し、 幾世代にわたって「ミライの世代」により良い地球環境を引き継ぐことができるよう、当レポートでは単年度 の企業活動だけでなく、ステークホルダーの皆様と長期的に取り組む価値共創に向けた情報を掲載しています。 今後も、一人でも多くの皆様と未来に向けてパートナーシップを構築してまいりたいと考えています。引き続き 弊社へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

報告期間

当レポートの報告対象期間は2021年7月1日~2022年6月30日ですが、一部に2021年6月以前・2022年7月以降の活動内容等を含みます。また、廃棄物に関するデータは2021年4月1日~2022年3月31日を報告期間としています。



ミライの世代を含めたすべてのステークホルダーの 「ハピネス」につながる事業経営を実現します

1969年の創業来かつてないほどに社会が大きく転換し、 事業経営においても拠り所とすべき指標や価値観が大きく 変化しています。

弊社は、社会の公器の一員として地球環境に負荷をかけ ない、むしろより良い地球環境を実現する商品やサービス をご提供したいという思いで2018年に水道直結ウォーター サーバー「ウォータースタンド」をコア事業に据えました。 「ウォータースタンド」の便利さや快適さを実感し、この商品 が心身ともに健康で「より良く生きる」ことに貢献でき、 から、大きな経営判断を行うに至りました。

ボトルを持ち使い捨てプラスチックボトルを減らす過程で 気づいたこと、行動したことがベースとなっています。何か

をガマンしたり他者から強制されたりして行うのではなく、 経済的な成長をあきらめるといったことでもなく、便利さや 心地よさを選んだ結果が環境にも良い影響を与え、従業員、 お客様、地域社会、ミライの世代すべてのステークホルダー の「ハピネス(しあわせ)」につながる事業経営を実現する ことは弊社の使命であり、ありたい姿でもあります。

ミッションには弊社単独で成し得ない数値目標を掲げて 経営と育児を両立していた私自身が、日々の生活においています。このことは、より多くの方とのパートナーシップを 結び、変革の渦の大きさで弊社の存在価値をはかろうとする 私たちの意思であり、規模の経済を追求する過去の時代の 地球環境にとってもポジティブな影響があると確信したこと 考え方とは相反するものです。革新的なイノベーションの 社会実装はそれ自体素晴らしいものですが、その時を待つ のではなく、今日から多くの方と共に行動を起こし、社会に 弊社の「ミッションとビジョン」は、私たちが皆でマイ 対してより大きなハピネスをお届けできるよう、最大限の 取り組みを行う所存です。

2022年12月

本多 均

ウォータースタンド株式会社 代表取締役



「ウォータースタンド」を通じて創出するハピネス

浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」は誰もがアクセスできる水道インフラを活用し、すべてのステークホルダーの 「ハピネス(しあわせ) | を創出します。















商品価値

便利さ

- 使用人数やライフスタイルに合わせて選べる 多様な製品ラインナップ
- 常温水・温水・冷水3つの温度帯で様々な用途に対応



- 安心してご利用頂けるレンタル体系
- 月額定額制使い放題の料金設定
- コンパクト設計で省スペース
- 高性能フィルターでろ過したおいしいお水

お客さま

社会的価値



生活の質(QOL)の向上

顔がみえる地域密着型のサービス体制

• お客様の生活動線を考えた設置場所のご提案・ 取付け作業



- 無料故障修理サービス
- 年中無休の電話対応
- 無料の定期メンテナンス

地域社会・ミライの世代







地域活性化 ワンウェイプラスチックの削減

商品価値

誰もがアクセスできるインフラの活用



- • ボトルウォーターよりお財布にやさしい



• 無料で給水できる「給水スタンド」

お客さま・地域社会・ミライの世代

社会的価値







水の採掘による地盤沈下等の環境問題を回避



プラスチック削減



ゴミ廃棄の手間の削減 ・ 在庫管理の手間の削減



廃棄物収集・処理にかかるコストの軽減

お客さま・地域社会・ミライの世代







プラスチック資源の有効活用 ワンウェイプラスチックの削減 プラスチックによる環境汚染防止

従業員・お客さま・地域社会・ミライの世代





環境とひとにやさしい ビジネスモデル



誰もが活躍できる働く場の創出 • 車両からエコな自転車へ



重いボトル交換が不要



製品の最終処分まで弊社が管理 • 本体・部品の再生



ダイバーシティの推進 CO₂ 排出抑制による気候変動の緩和



省エネ設計



エネルギー費のコスト削減

お客さま・地域社会・ミライの世代







エネルギー資源の有効活用 CO₂ 排出抑制による気候変動の緩和



水分摂取による健康増進



• 水分摂取による健康増進



誰もが給水できる「ウォータースタンド」を自治体と 協働で設置し熱中症などの健康被害を回避

お客さま・地域社会・ミライの世代







健康寿命の延伸

ハピネス創出に向けた ウォータースタンドの価値創造プロセス

ウォータースタンド(株)は事業を通じて社会課題解決に取り組み、地球環境への負荷軽減を図ることでミライの世代に 豊かな水資源を継承します。

社会的課題

- ・水資源の稀少化
- ・地盤環境の維持



飲料などに活用できる地球上の水 ※出所:国土交通省資料

- ・ワンウェイプラスチックの削減
- ・CO2 削減による気候変動の緩和
- ・持続可能な廃棄物処理



最終処分場残余年数 ※出所:環境省資料

- ・地域の雇用創出
- ・ダイバーシティの推進
- ・循環経済への移行



※出所:環境省資料

- ・気候変動への適応
- 健康寿命の延伸







多様なニーズに応える商品

弊社の取り組み

- ●セルフメンテナンス・省電力などの特長 を備えた新モデルのリリース



環境負荷の小さい業務プロセス

弊社の取り組み

- ●使い捨てプラスチックボトル削減に向けた ボトルフリープロジェクトの推進
- ●業務上排出する CO₂ の削減



長く使えるサービス体制

弊社の取り組み

- メンテナンスによる本体の長寿命化 P.22
- ●顔の見えるアフターサービス





飲む行為をサステナブルに

弊社の取り組み

●自治体との協定締結により誰もが使える 給水スタンドを設置



ハピネスの創出

持続可能な事業運営

「ウォータースタンド」から マイボトルへの給水を拡大

豊かな水資源の維持



• 誰もがアクセスできる水インフラの活用







• ワンウェイプラスチック削減による CO₂ 排出抑制

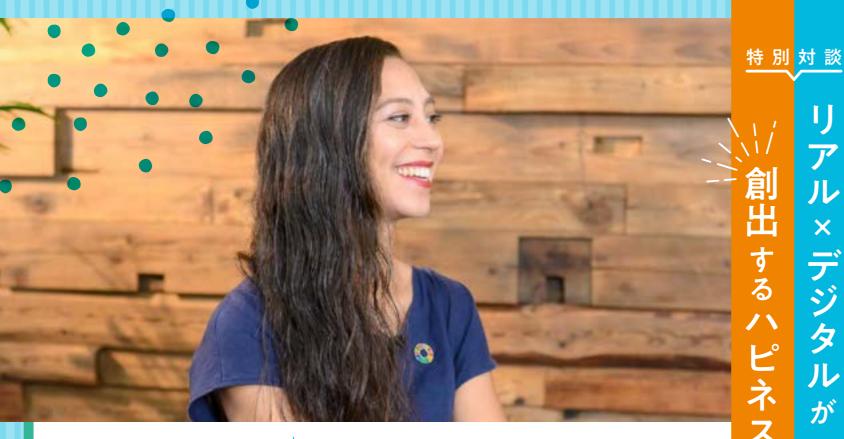




- レンタルによる循環経済ビジネスモデル
- ウォータースタンドの理念を実践する 人財の育成・職場環境整備



• 給水スタンドの整備と水分補給による 熱中症などの回避



一般社団法人 Social Innovation Japan 共同創立者・代表理事

マクティア マリコ

イギリスに生まれ、ロンドン大学卒業後に中日新聞社ロンドン支局に勤務 し、2014年から駐日英国大使館の国際通商部で執務。2017年には社会課題や 環境問題などの情報発信や解決策の創出を行う一般社団法人 Social Innovation Japanを設立し、その活動の一環で日本初の無料給水アプリ「mymizu」(マイ ミズ)を立ち上げる。

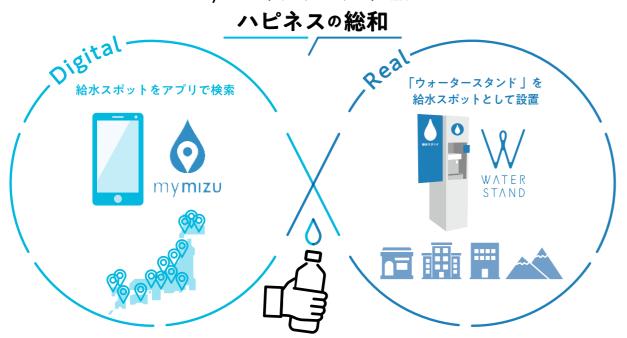
水道水を活用した給水方法を提案する「リアル」、給水アプリを通して給水スポットとユーザーをつなぐ「デジタ ル」と、異なる「給水」へのアプローチで持続可能な社会の構築に挑む一般社団法人 Social Innovation Japanと ウォータースタンド(株)が、パートナーシップを締結。今般、マクティア マリコ氏と弊社本多 和平との対談が実 現し、現在の取り組みや今後のビジョンについて大いに語り合いました。



こちらからご覧頂けます

※ M.M:マクティア マリコ K.H:本多 和平 (敬称略)

mymizuとウォータースタンドが創出する





ウォータースタンド株式会社 マーケティンググループ グループ長

和平

埼玉県に生まれ、高校時代に単身アメリカへ留学する。その後、19歳で国際 NGO団体CIESFカンボジアに勤務し、発展途上国における教育支援と産業人材 育成に従事。2017年に入社、経営企画部マーケティンググループ グループ長 としてデジタル活用による事業拡大と社会課題解決に取り組んでいる。

01------

IJ

X

タ

が

共に手を取り合って「給水」で世界を変える

- K.H このたびは弊社とパートナーシップを結んでいただい たことに心から感謝します。私どもは、給水のプロセス にプラスチック容器を介在させない、「ウォータースタ ンド」の普及拡大を通して、ペットボトルの削減に取り 組んでいますが、やはり設置場所の案内がなければ効果 は限定的です。その点で「mymizu」の存在はとても頼 もしく感じています。
- M.M こちらこそありがとうございます。私たちが展開す る「mymizu」は、無料で給水できる場所をスマートフォ ン上のマップに表示し、給水したい人と給水スポット をつなげる無料給水アプリです。給水した分、ペット ボトルを何本使わずに済んだのかをチェックできます。 今後、ウォータースタンド(株)との連携で、マイボ トルを携帯することが一般的になり、ペットボトルの 削減が拡大していくと信じています。
- K.H マリコさんたちがマイボトルを使ったペットボトルの 削減に着目されたきっかけは、どのようなことだったの でしょうか?
- 以前沖縄を訪れた時、きれいだと想像していたビーチ

- がペットボトルなどのプラゴミで汚れていたのを目にし ました。日本は水道水を飲料水として飲める国であるに も関わらず、私たちはのどが乾いたらペットボトル飲料 を買うことが当たり前になっています。「マイボトルを 携帯するようにすれば、ペットボトルの削減につながる のではないか」と思ったのがきっかけですね。
- K.H 自動販売機の数の多さと、日本人が消費するペットボ トルの量とが比例して非常に多くなっているのではない かと感じます。
- M.M 実は日本は一人当たりのプラ包装ゴミ排出量が世界第 2位*なんです。海外ではワンウェイプラスチックの削減 に向けたムーブメントが起きているのに、日本ではそう した活動があまり盛り上がっていませんでした。そこで 「mymizu」がこれまでの行動を見直すきっかけを提供 できれば、状況も変わってくるのではないかと思いまし た。マイボトルの携帯が面倒だと思っていた方も、一度 「mymizu」を利用してマイボトルを持ち始めたら気に 入って続けているというケースがたくさん見られます。
- K.H 私も「mymizu」のユーザーですが、ペットボトルを

※2018年6月発表のUNEP(国連環境計画)の報告書『シングルユースプラスチック』より



何本削減できたか数値として「見える化」されるので、自分の行動による効果がわかって励みになります。また、自分一人では無力と感じることもありますが、「mymizu」アプリではユーザー全体での取り組みも数値化され、連帯感を得られます。こうした点が活動にデジタルを取り入れる大きな意義だと感じます。

.... 02.....

気軽に利用できる 給水スポットが全国に拡大

- K.H 現在弊社では、41市区町村**と使い捨てプラスチック削減に向けた協定を締結しています。排出するゴミの増加に伴い処理コストもかさみ、街の美化という観点からもよくありません。「mymizu」が給水スポットの存在をデジタルで示しているのと対比的に、弊社が協定締結の下で設置する給水スポットとしての「ウォータースタンド」はリアルな存在です。ところで、今「mymizu」に登録されているパートナー数はどのくらいですか? **2022年6月末現在
- M.M 2,000店を超えています。もう日本全国47都道府県、どこにいてもパートナー(加盟店)があるような状態ですね。 加盟店は街の小さなおそば屋さんから有名ブランドショップまで、多種多様です。
- K.H 「mymizu」からすぐ近くのお店で給水ができるとわかっても、給水するだけで入店することに少し恥ずかしさを感じて、なかなかお店の扉を開けられないということがあると思います。何も気にせず入店しても大丈夫なのでしょうか?
- M.M もちろんです。給水するだけの来店を歓迎することが「mymizu」への参加条件になっていて、その点に賛同したお店が登録してくださっています。「mymizu」に参加することで、より多くの人にお店を知ってもらうきっかけになるうえに、環境活動もできるのはすごいことだと思ってもらえているようです。

03

未来を生きる若い世代に 事実を伝えて希望をつなぐ

- K.H 私は今回のパートナーシップ契約の締結を機に、マリコさんたちと一緒にチャレンジしたいと考えていることが二つあります。一つは私たちの取り組みのさらなる周知です。 弊社では、2030年までにペットボトルを30億本削減することを大きな目標に掲げて活動しています。しかし、これは途方もない数字で、弊社だけの力で達成できるものではありません。そこで、いろいろな方に声掛けをしているのですが、今後はマリコさんたちのご協力もいただきながら周知をさらに進めて、お力を貸してくださる方をもっと増やしていければと思っています。
- M.M 野心的なゴール設定ですね。プラゴミ問題はスケールが 壮大で小さな団体にできることは限られています。私た ちの活動も給水パートナーをはじめ、行政やメディアなど、 たくさんの方にお手伝いいただいています。
- K.H もう一つは環境教育です。学校の「ウォータースタンド」が、ただ水分補給や熱中症対策として利用されるだけでなく、マイボトルを持つ意味や地球環境が今後どうなっていくのかを、未来を生きる若い世代の方々に考えて頂くきっかけにしてもらいたいです。
- M.M 環境問題は複雑で一般にはあまり伝わっていない部分もあるので、私も教育が大事だと考えています。環境問題が私たちの生活にどう影響してくるのか、また、それに対して私たちに何ができるのかを考えてもらうには、やはり教育から始めないといけないと思うので、ぜひ一緒に取り組んでいきたいです。
- K.H 弊社では、「ウォータースタンド」の近くに環境問題についてわかりやすく説明するポスターなどを掲示しています。なぜマイボトルで給水しないといけないのかを出前授業でお伝えすることもあります。同時にマイボトルへ給水していただき、リアルな体験と弊社のメッセージがつながる工夫をしています。
- M.M 私たちも学校で活動する機会がありますが、環境のこと に興味を持っている子どもたちは多いですよね。やはり自

分の将来がちょっと気になっていて、これからの地球はどうなっていくのかを考え、何かしなければいけないという気持ちから、すでに活動を始めている子どもたちもいます。そんな子どもたちを見ていると、未来を生きる世代に対してすごく可能性を感じますし、同時に私たちには環境のことを彼らに正しく教えていくという大切な役割もあるのかなと思いますね。

- K.H そうですね。日々環境問題に取り組んでいる私たちには そんなミッションもあると思います。
- M.M 環境問題は間違いなく深刻ではありますが、教育するうえではただ「たいへんな状態になっています」と伝えるだけではなく、一人一人の自覚次第で未来は変えていけるという希望につなげることが大切ですよね。
- K.H そのとおりです。親御さんたちが子どもたちに伝え切れないことを私たちがどのように伝えていくか、より具体的に考えていきましょう。

..... 04

サステナブルな社会は みんなの「ハピネス」から

- K.H 日本は今、モノがあふれて豊かになっている一方で、世界は深刻な環境問題を抱えています。弊社は今年のテーマに「ハピネス」を掲げています。地球環境を守っていくことで、幸福度が向上することを全社一丸となってステークホルダーの皆さん、特に未来を生きる若い世代に向けて発信していこうとしています。
- M.M 素敵ですね。私が個人的に考える持続可能な社会もみんなが幸せな社会です。
- K.H 幸せといっても人によって捉え方が違うと思いますが、 日本とイギリスの両方をよくご存じのマリコさんから見て、 日本とヨーロッパでは幸せの捉え方にどんな差があると感 じられますか?



す。もちろん日本にもそういった傾向は見られますが、ヨーロッパのほうが少し早い気がしますね。

- K.H 「モノ」ではなく「コト」での、マリコさんが日々の活動を通して感じられる「幸せ」はどんなことですか?
- M.M 人と人とのコミュニケーションで得られる幸せですね。 たとえば「mymizu」で見つけた給水スポットのお店に入 り、そこでお店の方とちょっとした会話が生まれるといっ たことがそれに当たります。
- K.H 「mymizu」は、人と人とのコミュニケーションの最初の 入り口を手助けするのに役立ってくれるアプリだと感じます。
- M.M そうですね。さらにコミュニケーションを深めるということでは「mymizuチャレンジ」も有効です。「mymizuチャレンジ」とは、仲間と一緒に期間を設定してマイボトルを使い、ペットボトルの削減に取り組むというもので、「mymizu」による効果の「見える化」が生かされて、とても有効に機能しています。これまでにたくさんの企業や地域に参加していただいています。「みんなでとりあえず1カ月間頑張ろう!」という楽しい雰囲気が参加へのハードルを下げ、今では学校からも参加していただいています。
- K.H 堅苦しいイメージのある環境活動も、チームで取り組んだり、ゲーム感覚が味わえたりする楽しさがあると参加しやすくなりますよね。楽しさといえば、弊社では今、ユーザーの様々なニーズに対応する新機種の開発を進めています。環境活動は禁欲的に感じられる向きもありますが、環境活動を楽しいものに変え、いつの間にかプラゴミのほか、ボトリングや輸送などに伴って発生していたコストやCO2の低減に貢献する仕組みを作っていきたいと考えています。
- M.M とても夢のあるお話です。これから進めていくさまざまな取り組みが、本当に楽しみになってきました。
- K.H リアルとデジタルを融合させて、マイボトルの携帯を 当たり前のものにしていきたいです。「ハピネス」にあ ふれる社会を築き上げていきましょう。



mymizuアプリ ダウンロードはこちら



10

パートナーシップによって実現する 「ボトルフリープロジェクト」



弊社は、プラスチックと賢く付き合っていくための環境省の活動 「プラスチック・スマート」に参加しています。

ウォータースタンド(株)にとって最も大切なステークホルダーはミライの世代です。

2019年にスタートした「ボトルフリープロジェクト」は、何度も使える水筒やタンブラーへの給水を呼びかけ、使い捨てプラスチックボトル30億本の削減を目指し資源循環を通じた持続可能な社会を実現するための取り組みです。

ミライの世代に健やかな地球を引き継ぐため、多様なパートナーと共に「ボトルフリープロジェクト」を推進しています。



01

地域一体で 取り組む

健やかな生活は安全で安心な地域インフラによって実現します。ウォータースタンドは 全国の自治体と連携し、社会課題解決に貢献します。

02 全国に プロジェクトの 輪を広げる

環境問題への取り組みは一つの地域だけで完結するものではありません。ウォーター スタンドは活動範囲を全国に広げ、国内全体でプロジェクトの進捗状況を共有します。

03

誰もが 参加できる 使い捨てプラスチックボトルを減らす取り組みの第1歩は、マイボトルを携帯すること。 ウォータースタンドは自らが実践した取り組みを広げ、具体的でポジティブな行動を 呼び掛けます。

04

進化し続ける インフラ

電気を使用しない常温水のみのタイプをご用意するなど、当プロジェクトを支える 「ウォータースタンド」には多様なタイプの商品をご用意しています。

受賞歴・事例掲載

- 第12回脱炭素チャレンジカップ2022 「オルタナ最優秀ストーリー賞」受賞 https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/
- 令和3年度「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」受賞 https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/jisseki_r03/
- 一般社団法人日本子育て支援協会 2021年度日本子育て支援大賞 https://www.happy-note.com/presscenter/press/award_2ndreleace.pdf
- 農林水産省・消費者庁・環境省連携 サステナアワード2020 伝えたい日本の"サステナブル" サステナアワードルーキー賞 https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/sa_award2020.html

- 経団連 Theater 5.0 https://theater5-0.com/article/373?show=company
- ・経済産業省関東経済産業局 中小企業のSDGs取組事例 https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sdgs/sdgs_senshinjirei.html
- 国立環境研究所気候変動適応センター 気候変動適応情報プラットフォーム(「A-PLAT」)
 https://adaptation-platform.nies.go.jp/private_sector/database/opportunities/report_065.html
- 埼玉県 埼玉県環境SDGs取組宣言企業 https://www.pref.saitama.lg.jp/a0501/sdgs/kigyou-rist.html



「ウォータースタンド」設置台数

地域密着型の お客様とのコミュニケーション





貢献するSDGsのターゲット

1.5	3.4	3.d	5.4	6.1
6.4	6.6	9.4	11.6	11.7
11.b	12.8			

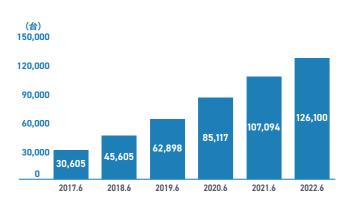


弊社は、「ウォータースタンド」設置台数を基にプラスチックボトル削減本数とこれによる削減CO₂排出量を推計しています。

プラスチックボトル削減本数は、「ウォータースタンド」設置台数に、PETボトルリサイクル推進協議会公表のボトル入り飲料水出荷本数を国内総人口で除した1人あたりボトル入り飲料水使用本数を乗じて算出しています。

「ウォータースタンド」からマイボトルに給水することで削減されるCO₂排出量は、環境省公表の「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析」の、マイボトル(水筒)の利用に関する環境負荷分析結果を参照し算出しています。

「ウォータースタンド」設置台数







■給水スタンド

どなたでも給水できる「ウォータースタンド」を「給水スタンド」と呼称し、マイボトルに給水頂くことで使い捨てプラスチックボトル削減と熱中症などを回避するための水分補給に役立てています。

地球上の飲料として利用できる淡水の割合はわずか0.01%であり、人口増加に伴い水は今後さらに稀少資源化することが予想されています。弊社は、誰もがアクセスできる水道インフラを活用し水資源枯渇の危機回避に対応します。

■業務におけるCO₂排出抑制

弊社は、業務上生じるCO₂の排出を抑制するため2020年5月からエコサイクル手当を導入し自転車の利用を促進しているほか、カーシェアリングサービスなどのMaaS*の利用を推進しています。(※モビリティ・アズ・ア・サービス:移動手段としての車両を所有するのではなくサービス化するビジネスモデル)

また、デジタル技術を活用し遠隔による商談機会を創出することで、お客様とのコミュニケーションを強化するだけでなく、移動に伴うCO₂排出の抑制を図る取り組みも実施しています。



貢献するSDGsのターゲット

4.7 | 6.6 | 12.2 | 12.4 | 12.5

全国 クチ ケ所

弊社は2018年にウォータースタンド事業を通じて気候変動や環境問題に取り組むことを決意し全国に営業網を拡大して以降、地域密着型の事業運営を推進してまいりました。

CO₂削減やプラスチック資源循環など気候変動への対策が喫緊の課題となるなか、「ボトルフリープロジェクト」P12 の拠点として、2022年6月末において全国に64か所の営業所を開設しています。

「ウォータースタンド」が給水する人にとってなくてはならない存在となり、より良い行動に向けた対話と行動のきっかけとなること を目指し、今後も地域に密着しお客様に安全安心をお届けするサービスを遂行してまいります。

Our voice



高崎営業所 小玉 達矢

私は、お客様との一期一会の出会いや、情報提供などのお役立ちを大切にしています。

数年前から、お客様と気候変動などの環境問題やSDGsなどの世界の変化についてお話しする機会が増えてきました。学校のカリキュラムにSDGsが組み込まれたり、「ウォータースタンド」が地域の公共施設などで見かける身近な存在になり、「ボトルフリープロジェクト」開始時と比べて、弊社の事業を通じた環境への取り組みがお客様や地域に浸透してきたと実感しています。

刻々と変化する社会のニーズに対応することや、中長期的 に地域の発展につながるお客様への貢献が、仕事をする上で モチベーションとなっています。



, _{赤坂営業所} 野村 柚李亜

法人営業でも、企業の「中の人」に向けて環境やSDGs などの社会課題を自分の言葉で伝えています。また、企業 の先にいらっしゃる「お客様」にも喜んで頂ける商品として 自信を持ってご提案し、子どもの頃から慣れ親しんだテーマ パークに導入頂いています。

個人のお客様の多くが、ご自宅の「ウォータースタンド」 にご満足頂いていながら「重い」「外出時に給水できる場所 がない」といった理由でマイボトルを携帯されていません。 「マイボトルが折り畳み傘のような存在になる」という自分 なりのイメージを、弊社が掲げるミッションに重ね合わせ、 お水にまつわる不便さを解消することを目指しています。

水筒提供本数

水の安全性を管理する 人財の育成・ダイバーシティ推進





貢献するSDGsのターゲット

 12.2
 12.4
 12.5
 13.1
 13.3

 14.1
 14.2
 15.1,
 15.2
 15.4

8,1万本

2022年6月期



【「給水スタンド │ によるマイボトル運動への協力

マイボトルに給水することは、誰もが今日から取り組め、SDGs達成への貢献を自分ごととすることのできる行動です。弊社では、環境問題に対する意識を喚起するため誰もが給水できる「ウォータースタンド」を什器に組み込み、「給水スタンド」として提供しています。 各地域の自治体が行うマイボトル運動においても、市民や事業者、行政の取り組みの目的を共有し活動への参画を促す役割を果たせるよう、「給水スタンド」を設置し協力しています。





【「スポ GOMI 大会 in とよた」への参加

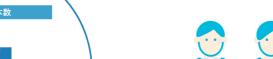
2021年10月、とよた SDGs パートナーの一員として豊田市が開催する「食品ロス削減全国大会 in 豊田」のおもてなしイベントのひとつである「スポ GOMI 大会 in とよた」に参加しました。 25団体が参加し、豊田市駅周辺で競技としてのゴミ拾いを楽しみ、108kgものゴミを集めることができました。今後も各地域における SDGs の達成に向けた活動に積極的に参加してまいります。



【SDG s サッカー大会「AGU CUP 2021」への参加

2021年12月、愛知学院大学で行われたSDG s サッカー大会「AGU CUP 2021」に参加しました。同大会は「飲むことに関わるプラゴミをゼロに!」、「食べることに関わるプラゴミは可能な限り削減!」をコンセプトに、参加者、観戦者、スタッフ全員でマイボトルやマイカップを持ち込み、ペットボトルと使い捨てカップの使用禁止に取り組みました。同大会の理念に共感しマイボトルへの給水を推し進めるため、弊社は「ウォータースタンド」を設置しお水を提供しました。







16.5

8.2 8.4 8.5 8.8 10.3

従業員数

2022年6月末

624_A

(パート・アルバイト含む)

■多様な働き方の推奨と快適な職場環境の形成

弊社は2013年から「埼玉県多様な働き方実践ゴールド企業」として女性の活躍支援を継続し、雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金に基づく対応を行っています。 2021年4月からは、多様な働き方を推奨するため全社員がスーパーフレックス制度を選択できるよう労務制度改革を実施し、残業時間の低減を実現しました。

また、職場における安全と従業員の健康を確保するため、安全衛生委員会を開催し労使一体となり快適な職場環境の形成に取り組んでいます。



【全従業員を対象とした社員持株会

弊社は事業を通じて社会課題を解決することで、持続可能な成長とサステナブルな社会の実現を両立することを目指しています。 これまでも社員持株会を通じて社員による経営の監督を行ってまいりましたが、2022年7月からは弊社の理念や目指す姿に共感し共 に事業運営に携わる全ての職種の従業員に社員持株会の対象を拡大し、ガバナンス体制の強化を図ることと致しました。

■SDGsゲーム研修をはじめとする人財教育

環境問題や社会課題について知識を獲得するだけでなく、一人一人の日々の行動や仕事がミライにつながっていることを認識し、弊社の理念や事業内容について理解深耕を図るため、SDGsゲーム「2030SDGs」による研修をはじめSDGsやESGについて従業員が学ぶ機会を積極的に創出しています。



研修参加者の声

- 環境と経済、社会が密接に関わり合っていることを体感できてよかった。SDGsのゴールを達成するには、広い視野をもってバランスよく進める必要があると感じた。
- 未来の立場に立ちSDGsによって問題を捉え、バックキャスティングで解決方法を探る考え方を知れて良かった。これから1人1人が考えるべき課題があることや、SDGs達成に向けた取り組みがコストではなく投資と考えるべきであることを学ぶことができた。

10

自治体とのパートナーシップ



ボトルフリープロジェクト自治体との連携へ

企業とのパートナーシップ



ボトルフリープロジェクト企業との連携へ

「持続可能な開発目標 | (SDGs) や「パリ協定 | といった国際的な課題解決に向けた取り組みに加え、日本国内では地域における 複数の課題の統合的な解決を目指す「地域循環共生圏」という考え方が提唱されています。

弊社は自治体とのパートナーシップの下、マイボトルへの給水を呼び掛け使い捨てプラスチックボトルの削減に取り組んでいます。 この活動は、地域住民・事業者などステークホルダーへ環境保全に向けた意識を浸透し、廃棄物処理にかかる費用を削減することで 地域財源の有効活用につなげ、自然や景観などの地域資源維持を図るもので、地域の特性を生かし活力を最大限発揮することを目指す 「地域循環共生圏」の考え方に添うものです。

2022年6月末

	5 \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		5 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		5 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
協定締結年月	自治体名	協定締結年月	自治体名	協定締結年月	自治体名
2019年6月	さいたま市 (埼玉県)	2021年4月	吹田市 (大阪府)	2022年3月	白岡市 (埼玉県)
2019年9月	葉山町 (神奈川県)	2021年6月	亀岡市·亀岡市教育委員会(京都府)	2022年3月	川崎町(福岡県)
2019年11月	所沢市 (埼玉県)	2021年6月	渋谷区 (東京都)	2022年3月	多摩市 (東京都)
2020年1月	京都市 (京都府)	2021年6月	泉大津市 (大阪府)	2022年3月	神崎町 (千葉県)
2020年2月	鎌倉市 (神奈川県)	2021年7月	さいたま市教育委員会(埼玉県)	2022年4月	熊取町 (大阪府)
2020年10月	世田谷区 (東京都)	2021年8月	日野町 (滋賀県)	2022年4月	明和町 (三重県)
2021年1月	館林市 (群馬県)	2021年8月	上尾市 (埼玉県)	2022年5月	上野村 (群馬県)
2021年1月	小田原市 (神奈川県)	2021年9月	島本町 (大阪府)	2022年5月	町田市 (東京都)
2021年3月	川崎市 (神奈川県)	2021年11月	藤岡市 (群馬県)	2022年5月	浜松市 (静岡県)
2021年3月	藤沢市 (神奈川県)	2021年11月	岡山市 (岡山県)	2022年5月	二宮町 (神奈川県)
2021年4月	志摩市 (三重県)	2021年12月	直方市 (福岡県)	2022年5月	山梨市 (山梨県)
2021年4月	*春日部市 (埼玉県)	2022年1月	杉並区 (東京都)	2022年6月	田川市 (福岡県)
2021年4月	西宮市 (兵庫県)	2022年1月	丹波篠山市 (兵庫県)	2022年6月	日野市 (東京都)
2021年4月	尼崎市 (兵庫県)	2022年3月	妙高市 (新潟県)	2022年6月	横須賀市 (神奈川県)

*2022年4月満了

2022年6月30日時点

2022年6月末時点 参加プラットフォーム

- かすかべSDGsパートナーズ
- さいたま市SDGs企業認証
- 静岡市 SDGs 宣言
- 埼玉県SDGsパートナー
- 北九州市SDGs認証事業者
- 名古屋市SDGs推進プラットフォーム
- 関西SDGsプラットフォーム
- かながわプラごみゼロ宣言
- 新潟市環境優良事業者等認定

福島県マイボトル・マイカップ推進キャンペーン

• シマシSDGsパートナーズ

- かながわSDGsパートナー
- つくば SDGs パートナーズ
- 浜松市SDGs推進プラットフォーム
- 地域創生プラットフォーム SDGsにいがた
- あいちSDGsアクション
- こまきSDGs宣言
- 丹波篠山市気候非常事態宣言
- おおさかマイボトルパートナーズ
- ちばマイボトル・マイカップ協力事業者
- 横浜マイボトルスポット
- おだわらSDGsパートナー

- かわさきSDGsパートナー
 - 埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム
 - 北九州SDGsクラブ
 - Y-SDGs 第3回スタンダード事業者
 - ちばSDGsパートナー
 - さかいSDGs推進プラットフォーム
 - かわさきカーボンゼロチャレンジ2050
 - 埼玉県プラスチック資源の持続可能な利用促進
 - 名古屋市マイボトル・マイカップ運動

伊勢志摩国立公園のゼロカーボンパークへの登録



西井 將人様

マイボトルに給水できる「ウォータースタンド」を設置したこと が、伊勢志摩国立公園が全国で2番目にゼロカーボンパークとして 登録されるに至った主な取り組みであることをお伝えしています。 美しい公園を保持することは、住民や事業者の方にとってプラスに なるだけでなく、観光業の発展など市外からの資源流入につながる 可能性があり、様々な側面で地域の活性化に寄与します。 (志摩市環境課※西井將人様 ※所属はインタビュー当時)



『SDG Compass』*によれば、「SDGsはすべての企業に対し、明確に、その創造性及びイノベーションを活用して、持続的発展のため

弊社がミッションにおいて掲げる使い捨てプラスチックボトル30億本の削減は、SDGsの複数のゴール達成に関連しており、課題を 統合的に解決するためには業種を越えた企業同士の共創が不可欠です。

弊社は、他の企業と多様な知見を持ち寄り、相互に持続的な成長を遂げつつ、サステナブルな社会の実現に貢献することを目指しています。 ※GRI、国連グローバル・コンパクトおよび WBCSDがSDGs の企業行動指針として作成

2022年6月末時点 加盟団体・イニシアティブ

- 一般社団法人 新経済連盟
- CLOMA (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス) ウォータープロジェクト

の課題を解決するよう求めている | とされています。

- 東京都チームもったいない
- 海と日本プロジェクト
- 生物多様性のための30bv30アライアンス
- 熱中症予防声かけプロジェクト
- CIESEF プラチナサポーター

- 埼玉県経営者協会
 - - 海ごみゼロ
- エコ活動ネットワーク足立EANA(いーな) 埼玉県森林づくり協定締結
 - GXリーグ
 - 気候変動イニシアティブ(Japan Climate Initiative: JCI) • 地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム

• プラスチック・スマート・フォーラム

• おおさかプラスチックごみゼロ宣言

JAPAN SDGs Action Platform

循環経済パートナーシップ(J4CE)

COOL CHOICE

GOOD NATURE HOTEL KYOTOにおける 「ウォータースタンド |設置

株式会社ビオスタイルが運営する GOOD NATURE HOTEL KYOTO (京都市下京区) は"人にも、自然にも、 いいものを。"のコンセプトの下、世界のホテルで初め て環境や健康に配慮した建物が認定される「WELL認証 (v1)」を取得し、使い捨てプラスチック削減の活動を推 進されています。同ホテルでは全客室にオリジナルタン ブラーを設置し館内から排出される使い捨てプラスチック ボトルを最小限にする取り組みを実施されています。弊社 は、24時間いつでも給水頂ける「ウォータースタンド」を 客室の各フロアに設置し、この活動をサポートしています。





【マイボトルを"持ち運ぶ"ことから始まる、 "使い捨て"という消費行動の変革

アサヒユウアス株式会社の「森のマイボトル」と「森 のタンブラー」は、国産間伐材を原料に活用し設計段階 において省プラスチック資源を実現しているだけでなく、 軽量で高強度であり熱にも強いことから製品ライフサイ クル全般で"使い捨て(ワンウェイ)"をせず"持ち運ぶ"とい うライフスタイルを提案しています。2021年の弊社ショー ルームにおけるお絵描きイベントに引き続き、2022年も 戸塚モディで同様のイベントを開催するなど、「森のマイ ボトル」・「森のタンブラー」がつなぐ「たのしさ・おいしさ・ ここちよさ」の輪が広がっています。





未来の世代とのパートナーシップ



ボトルフリープロジェクト教育機関との連携へ

現在、世界中で多くの若者が気候変動対策を求めて声をあげています。また、子ども達はSDGsについて学んでおり、ミライの地球 環境を自分ごととして捉えています。

学校に設置する「ウォータースタンド」は、環境問題について訴求するポスターや什器と併設し、マイボトルへ給水することで行動 と知識を一体化する工夫をしています。また、「ウォータースタンド」を設置するだけでなく出前授業などを通じて弊社の活動を伝える 機会も設けています。未来の世代と「自分たちの行動がミライを変える一歩になる」という認識を共有し、彼らの背中を押す存在に なることを目指しています。

2022年6月末時点 教育機関導入実績

大学

高校

• 堀越学園

- 日本工業大学 • 東京農工大学
 - 聖心女子大学
- - 創価大学 • 東京薬科大学
- 上智大学
- 関西大学
- 大阪大学

• 桜美林大学

• 武庫川女子大学 • 福岡県立大学

• 千葉明徳短期大学 • 麻布大学

長野県立大学

芝浦工業大学

医療創生大学

京都大学

- - 実践学園中学・高等学校

• 立命館大学

武蔵野大学

ドルトン東京学園

- 桜の聖母学院高等学校
- 中央大学杉並高等学校

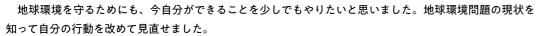
• 浜松開成館高等学校

- 中村学園
- 八王子学園

▋第一学院高等学校浜松キャンパスで夢授業を実施

全国にキャンパスを展開する通信制・単位制の第一学院高等学校の、浜松キャンパスに水道直結ウォーター サーバー「ウォータースタンド」を設置し1年生から3年生を対象に持続可能な社会の実現に向けた夢授業を 2021年11月に実施しました。





■学生も参画する上智大学サステナビリティ推進本部

上智大学は留学生が多く、国際色豊かな大学です。また、THEインパクトランキング2022で世界401位 -600位(SDGs13気候変動では国内2位タイ)*、四谷キャンパスの電気・ガスエネルギーを脱炭素化する など、社会課題に積極的に取り組んでいる大学でもあります。2021年に教職員だけでなく学生も参画する サステナビリティ推進本部が発足し、同年「ウォータースタンド」を導入しました。学生スタッフも学内の 環境整備に取り組んでおり、「ウォータースタンド」にカウンターを設置したところ、1日に3~4000回給水 されていることが判明し、増設に至りました。(※インタビュー当時)



■麻布大学との学術指導契約締結

麻布大学は『学理の討究と誠実なる実践』を建学の精神とする大学であり、学生主体で 脱プラを目指す産学連携プロジェクト「一杯からはじめよう!脱・使い捨てAction」を実施 しています。弊社は、同活動の理念に賛同し構内に「ウォータースタンド」を設置し、双方 の知見を活かし共に使い捨てプラスチックボトル削減を目指すため、学術指導契約を締結 しました。



サービス品質向上に向けた パートナーシップ



サプライチェーンはサーキュラーエコノミー型ビジネスモデルを支える重要な要素です。 「ウォータースタンド」のサプライヤーである韓国Coway社は2006年に環境経営を宣言し 生産工程における環境負荷を軽減する取り組みを継続しています。

Coway 社について

売上高	3 兆 6,643 億ウォン	(2021年12月期)
従業員数	6,525名	(2021年12月期)
エコフレンドリー商品 ^{**} 売上	8,969 億ウォン	(2021年12月期)

※エコフレンドリー商品:半導体冷却などの技術を応用しエネルギー効率を飛躍的に高めた商品

Coway社の浄水型ウォーターサーバーについて

浄水性能

国際的な浄水性能認証機関であるNSF Internationalの認証、米国の飲用水関連機器市 場において信頼性のある認証マークであるWQA(Water Quality Association)ゴールド シールを獲得しています。



安全性能

11の認定ラボを運営し国内外の安全性の動向や認証規制に迅速に対応しています。ノルウェーの安全 試験所であるNorges Elektriske Materiellkontroll (NEMKO)と提携し、欧州市場における電気・電子製品の ENECやCBなどの安全認証を取得しています。

環境性能

2020年から温水・冷水器のエネルギー効率向上プログラムを韓国適合性試験所(KCL)と共同で開発 する国家プロジェクトを実施、2021年3月に世界で初めてプログラムの開発に成功しました。

2021年における主な受賞

- BIS*サミット2021 「汚職防止賞」 (※BIS: 国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・コリアと韓国サステナビリティ投資フォーラム (KoSIF) が共同で立ち上げた組織)
- 通商産業省·エネルギー省主催 2021年「韓国品質賞(KNQA)」品質競争力優秀企業
- 韓国消費者庁、通商産業エネルギー省主催「エネルギー・ウィナー・オブ・ザ・イヤー」で「icon (アイコン)」が「エネルギー技術賞」を受賞
- 2021年「韓国経営大賞」のイノベーションベストプラクティス部門受賞

「ウォータースタンド」の資源循環



環境方針

「ウォータースタンド」はレンタルサービスであるため、弊社が機器本体の所有権を持ち、契約期間の定期メンテナンスや製品として の使用期間を終えた後の廃棄処分までを管理しています。

このことにより、機器本体の長寿命化を実現できるほか、使用可能な部品を再利用するなど、廃棄物の削減や限りある資源の有効活用につなげています。

Reduce

機種の特徴に合わせた定期的なメンテナンスサービスを確実 にご提供するため、シリアル No. を付与し、全機器のメンテ ナンス記録や利用期間などを管理しています。

また、万が一の故障修理対応や機器本体の交換などの対応情報も管理し、品質の保持と資源の有効活用を両立しています。

Reuse

使用済みの機器本体は全て回収し、清掃作業を行いながら 検品を進め、衛生状態を確保したうえで新品同様の機能を果た すリボーン機に生まれ変わります。

リボーン機を活用することは、資源の有効活用と廃棄物削減に貢献します。

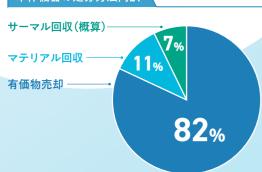
Recycle

寿命を迎えた機器本体の多くは、有価物としての売却、産業 廃棄物としての排出を通じて解体・破砕され、再生材原料とし て生まれ変わります。

プラスチックは 3~5 割が、鉄・アルミ・銅・ステンレスなどの金属はほぼ全量が、国内で再資源化され家電製品の一部などに活用されます。

今後も使用済み機器本体の資源化率の向上を目指し、廃棄物 削減を推進していきます。

本体機器の処分方法内訳





資源物・廃棄物集計データ 2021年4月~2022年3月

(表1)「ウォータースタンド」機器本体の処分方法内訳(t)		
有価物売却	185.56	
マテリアル回収	24.25	
サーマル回収(概算)	14.56	

表 1 • 2 合計(t)		
資源物合計	212.34	
廃棄物合計	397.02	

「ウォータースタンド」1台あたりの廃棄物排出重量 3.50kg / 1台あたり年間 ※2

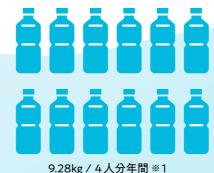
(表2)その他の産業廃棄物・有価物(t)		
廃プラスチック	120.01	
木くず	23.03	
金属くず	1.52	
がれき	3.70	
乾電池	5.68	
廃蛍光管	0.02	
安定型混合廃棄物	228.50	
その他の有価物	2.52	

2021年度版の数値について、以下の通り訂正致します。

安定型混合廃棄物重量:299.501t、廃棄物合計:395.935t、「ウォータースタンド」1台あたり産業廃棄物排出重量:4.277kg、1台あたり廃棄物削減効果年間平均5.3kg削減

「ウォータースタンド」の廃棄物削減効果 ※参考データ

ペットボトル飲料水を「ウォータースタンド」に切り替えた場合の廃棄物量比較(「ウォータースタンド」1台あたり4人利用を想定)







3.50kg / 1台あたり年間※2

5.78kg削減 / 1台あたり年間平均

廃棄物削減効果の算出方法

*

- ① 日本国内での2019年度PETボトル出荷本数236億本より、日本人 1 人あたりの年間使用本数を187.05本と算出。
- ②「ウォータースタンド」 1 台あたりの標準使用人数を 4 人とし、①で算出したPETボトル全量を削減できると仮定した場合の削減効果を年間748.2本と算出。
- ③ 上記②に対し、PETボトル1本あたりの重量を555ml、12.4gに設定 (①、③の出典:PETボトルリサイクル推進協議会発行「PETボトルリサイクル年次報告書2020」)

%2

上記「資源物・廃棄物集計データ」で示した廃棄物合計397.023tを、「ウォータースタンド」の2021年4月~2022年3月における平均登録台数(113,442台)で除算したもの。

ウォータースタンドレポート2022用語集

安定型混合廃棄物	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、 がれき類の5品目のみで構成された混合廃棄物
「ウォータースタンド」	ウォータースタンド (株) が提供するサーバー型浄水器の総称
給水スタンド	お客さまと弊社の間で使い捨てプラスチック削減などの目的を共有し、不特定多数の方が マイボトルに給水するために設置する「ウォータースタンド」
価値協創ガイダンス	経営理念やビジネスモデル等を体系的に整理しステークホルダーとの対話の質向上に寄与するため2017年5月に経済産業省が公表した手引
サーキュラー (循環) 経済	有限な資源を無駄に使わず資源循環させながらとことん使い続ける経済のあり方
リニア (一方通行) 経済	使用後の廃棄を前提とする旧来の経済のあり方
フィルター	「ウォータースタンド」に使用しているネオセンスフィルター、イノセンスフィルターのほか、 メインフィルターとして逆浸透膜 (RO: reverse osmosis) フィルターと静電吸着によるナノト ラップフィルターの2種のフィルター
フロン冷媒	「ウォータースタンド」に使用されている冷媒は代替フロン (R-134a) とノンフロン (R-600a) であり、弊社は自主的な回収を実施
「ボトルフリープロジェクト」	使い捨てプラスチックボトル削減とプラスチック資源の循環を目指して行う個人・企業・自治体・ 地域社会との連携や活動
リボーン機	短期間利用の製品について新品同様の機能を果たすよう弊社品質基準をクリアする規定整備 を加えたもの

Web

Webサイト

企業情報サイト

企業情報について waterstand.co.jp





サービスサイト

製品・サービスについて waterstand.jp





SNS



ウォータースタンド公式 Facebook @waterstand.jp



ウォータースタンド公式 Twitter @waterstand pr



ウォータースタンド公式 Instagram @waterstand.jp



ウォータースタンド公式 YouTube チャンネル

会社概要

商 号 ウォータースタンド株式会社 資本金 5,000万円(2022年6月期)

立 1969年3月31日 **売上金** 92億46百万円(2022年6月期)

従業員数 624名(パート・アルバイト含む)(2022年6月期) **在地** 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463

社員数 359名(2022年6月期)

常務取締役 近藤 紀行 員 常務取締役 金 昌勲 取 締 役 福嶋 友宣 監 査 役 紺田 和弘

本多 均

代表取締役

取引銀行 埼玉りそな銀行 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ銀行 武蔵野銀行 他

Coway株式会社 株式会社ジャスティス 大林通商株式会社 フォーレスト株式会社

主要取引先 株式会社カウネット 東急不動産株式会社 株式会社東急ホテルズ ダイキンHVACソリューション東京株式会社 全国地方自治体 官公庁

沿革

資本金200万円にて株式会社サニクリーン大宮(旧社名)設立

サニクリーン東京のフランチャイジーとしてダストコントロール事業を開始

1986年8月 アメニティ(環境快適化)商品の第一弾として空気清浄機のレンタルを開始以降、アメニティ商品の拡充を図る

1995年1月 営業地域の拡大により商号を「株式会社サニクリーンジャスト」に変更する

1996年10月 「株式会社ジャスト」に商号を変更し、事業領域を拡大する

1998年6月 サニクリーン本部フランチャイズを離脱

1998年7月 リユーストナー事業開始

2000年9月 オフィス通販事業開始

2000 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 | 777 |

2000年11月 加須工場、加須支店にてISO14001を認証取得

2004年11月 本社、さいたま支店にてISO14001を認証取得

2005年7月 宅配水事業 (ボトルウォーター) 開始

2011年4月 新本社(さいたま市大宮区桜木町4-463)完成

2012年2月 Coway株式会社 (韓国) と業務提携し、浄水器事業を拡大

2013年8月 Coway株式会社(韓国)から日本コーウェイの事業を譲受

2018年7月 ブランド名との統一を目的とし、商号を「ウォータースタンド株式会社」に変更する

2019年6月 ボトルフリープロジェクト開始

2021年9月 使い捨てプラスチック削減とCO₂排出量抑制を目的とし宅配水事業から撤退